

I 2017年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2017年度大学評価結果総評】

理工学部においては、2012年度に改変し構築された PDCA サイクルとこれへの従事により、学部教員の自己点検に対する意識向上が図られているものと評価できる。3つのポリシーは改定され完成版に至ったとされ、これらが履修の手引き・WEB等により周知・公表されている。学科によりコース制が設けられ、また選択科目の履修モデルが示されるなど、カリキュラムは教養科目なども含めて体系化されている。国際化に対応するためのSAプログラムなど、特徴ある教育プログラムが継続的に実施されている。シラバスはWEB上に公開され、それに沿った授業が行われているか等について、相互授業参観、学生アンケートなど複数の方法で検証が行われている。成績評価にはGP及びGPAが算出され習熟度を概観でき、データは分析され可視化されており、この結果を基に成績不振学生への対応も行われている。課題とされていた留学生比率の向上に向け、2018年度入試では大幅な改善策が予定されている。過年度までやや高めであった収容定員充足率は改善の方向にあり、専任教員の年齢構成に関する是正方針は実行され成果を挙げている。2016年度に課題とされた事項の多くは対応され、引き続き残った課題への対応方針が示されている。

以上のように理工学部では、教員・教員組織、教育規程・教育内容、教育方法、学生の受入れ、学生支援などに係る自己点検は機能し、多くの側面での改善がなされてきている。今後、その成果についてより具体的な指標などとして確認されていくことが期待される。

なお、大学院（修士課程）への進学率は、現在3～4割程度であるが、学科によっては工学部時代の水準に戻りつつあるとのことである。景気や社会情勢等に左右されると思うが、今後も進学率向上への努力を続けていただきたい。

【2017年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400字程度まで）

2016年度大学評価委員会の理工学部に対する評価では、「学部教員の自己点検に対する意識向上が図られている」、「カリキュラムは教養科目なども含めて体系化されている」、「相互授業参観、学生アンケートなど複数の方法で検証が行われている」、「データは分析され可視化されており、この結果を基に成績不振学生への対応も行われている」、「専任教員の年齢構成に関する是正方針は実行され成果を挙げている」との評価がある一方で、「その成果についてより具体的な指標などとして確認されていくことが期待される」、「大学院への進学率向上への努力を続けていただきたい」との指摘があった。

理工学部では、上記評価や課題に対して、以下のような取り組みを実施している。

- ・学生の入試経路毎に卒業までの成績を追跡し、入試経路と成績推移の関係を把握している。この知見から様々な入試制度の募集定員や指定校推薦入試の指定校選定等の検討を行っている。
- ・学部全体でTOEICやプレースメントテストの結果を成績評価に利用し、これをもとにクラス分けを実施している。また理解度が低い学生にはチューター制度による補習学習を実施している。
- ・SAに関しては、SA参加学生の渡航前後の成績や、平均的英語力についての推移を計測し把握している。
- ・インターンシップの利用状況を把握し、学生の利用動向を調査している。
- ・学部執行部会議及び学部教授会にて、「理工学部専任教員の年齢構成の継続的改善努力について」の成果の再確認を行っている。
- ・小金井キャンパスにおける「グローバルオープン科目の開設」へ協力している。
- ・機械工学科航空操縦学専修のカリキュラムの大幅な改定について検討を進めている。
- ・理工学部の教育目標及び三つのポリシーの修正及びその完成版の公表している。
- ・学科ごとにチューター活動報告の集計している。
- ・科目の履修登録、チューター制度、実験・演習、カリキュラム、シラバス、インターンシップ、卒業研究、就職活動をすべて対象とした学生モニターの制度を実施している。
- ・JST さくらサイエンスプログラムの実施協力をしている。
- ・生体を対象とする研究に関する倫理委員会要領を制定した。
- ・学部FD・質保証委員または学部専任教員による兼任教員担当科目の授業参観（2017年度から）を開始した。
- ・グローバル化対応の各種入試方法の積極的導入を（2018年度から）する予定である。
- ・スポーツ推薦入試に理科の履修条件を追加し、入学後の修学困難に対応した。

2018年度は、各種データ収集の充実とその分析を行い、指摘のあったより具体的な指標の明確化や、大学院進学率の向上のための施策を検討する予定である。

【2017年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

理工学部では、2018年度は各種データの収集の充実と分析を行うとの位置づけで、さまざまな取り組みを実施している。これらの取り組みによって収集されたデータやその解析結果が有効に使われることを期待したい。なお、「2018年度は、各種データ収集の充実とその分析を行い、指摘のあったより具体的な指標の明確化や、大学院進学率の向上のための施策を検討する予定である。」とのことであり、達成指標に基づく成果の「見える化」にも配慮した質保証活動にも取り組んでいただきたい。

II 自己点検・評価

1 理念・目的

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

【理念・目的】

理工学部は法政大学建学の精神「自由と進歩」「進取の気象」を重んじ、この建学の精神にもとづき理工学分野における広範な教育・研究活動を実践し、優れた研究成果を社会に還元するとともに有為な人材を世に送り出すことを基本理念とする。

この理念を実現するため理工学部は理工学主要分野において時代をリードする高度な研究活動を強力に展開・推進するとともに、教育面から、時代の先端技術に常に対応できる専門基盤技術を身につけ、高度な「ものづくり」に携わることができる人材、持続可能な社会の発展に貢献できる創造性豊かで幅広い教養と国際性を身につけた自立性のある技術者・研究者を育成することを活動の目的とする。

ここで言う「ものづくり」とは社会的ニーズから出発し、その分析、必要とされるテクノロジーの研究・開発、成果の評価実施というエンジニアリングのプロセス全体を象徴的に現わしたものであり、組織、システム構築等「しくみづくり」を包含する。真に独創的な「ものづくり」にはエンジニアリング「工」のためのテクノロジーに習熟するとともに真理の探究を目指す「理」の深い素養が必要との認識から科学的探究を実践する視点と洞察力を持った人材の育成をめざす。

【人材の育成に関する目的及びその他の教育研究上の目的】(教育目標) ※学則別表(11)

本学の「自由と進歩」の建学精神に基づき、理工学分野における基礎的かつ広範的な教育活動を学際的に実践するとともに、グローバル時代をリードする高度な知的研究活動を強力に展開・推進し、優れた理工学分野の新技术や研究成果を持続可能な地球社会の発展に貢献できる自律的な技術者・研究者を育成することを理工学部の教育理念とする。

グローバル時代における理工学分野の優秀な人材として、高度な「ものづくり」能力、創造性豊かで幅広い教養と国際性を身につけた自律性のある技術者・研究者を育成するために、理工学部では下記の教育目標を掲げる。

1. 専門分野における十分な問題発見・解決能力を身につけさせるとともに新分野の創造を担うことも視野に入れ、時代をリードする先端技術及びその基礎を体系的に習得させる。
2. 境界領域分野の修得や学生の視点に立った学びの多様化に対応すべく、学部横断的な教育を実践する。
3. 社会のグローバル化に対応すべく語学教育の充実、教養教育の充実、さらに異文化理解等広い意味で学生の国際性を涵養し、地球規模で活躍できる社会性豊かな人材を育成する。

加えて、各学科では理工学分野に関わる以下の専門的能力を有する学生をそれぞれ育成する。

<機械工学科>

ロボット、医療福祉、環境・エネルギー、航空宇宙などの専門技術者や研究者、そして機械工学の知識と技術を修得した航空パイロットを育成する。

<電気電子工学科>

電気エネルギー、マイクロ・ナノエレクトロニクス、回路デザイン、通信システム及び知能ロボットなどの分野で、先端基盤技術や高度な応用技術を開発推進できる人材を育成する。

<応用情報工学科>

人間環境情報、社会情報、情報ネットワーク、生体情報、ユビキタス情報及び基礎情報などの分野において、これからの情報産業でキーパーソンとなる技術者や研究者を育成する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<経営システム工学科>

数理システム、企業システム、社会システム及び生産システムなどの分野において、経営を数理的に理解し、新企画を生み出せるマネジメント・エンジニアを育成する。

<創生科学科>

科学的な考え方と問題解決法を修得し、その手法を理系・文系の枠組みを超えて、物質・自然・人間・知能などあらゆるフィールドで展開し、あらゆる分野の問題解決に活用できる力をもった人材を育成する。

①学部（学科）として目指すべき方向性等を明らかにした理念・目的が設定されていますか。	はい いいえ
②学部（学科）の理念・目的は大学の理念・目的を踏まえて設定されていますか。	はい いいえ
③理念・目的の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。	

(~400 字程度まで) ※検証を行う組織（教授会や各種委員会等）や検証の時期等、具体的な検証プロセスを記入。
 執行部会議及び教授会において、改善点を明確にすることにより、継続的・組織的なチェックを行っている。年度末には質保証委員会にて年度目標及び達成指標に基づく評価を実施している。

1.2 大学の理念・目的及び学部・研究科等の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

①学部（学科）の理念・目的は学則又はこれに準ずる規則等に明示していますか。	はい いいえ
②どのように理念・目的を教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。	

(~400 字程度まで) ※具体的な周知・公表方法を記入。
 ・学生向けに理工学部生のための履修の手引きを公開している。
 ・理工学部の教育目標及び三つのポリシーを完成させ、法政大学の Web に掲載して社会に対して公開している。
 (<http://www.hosei.ac.jp/riko/shokai/policy/index.html>)

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
学生向け、教員向け、社会にむけてポリシーの公開をするとともに、検証を行っている。	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

理工学部として目指すべき方向性等を明らかにした理念・目的が大学の理念・目的を踏まえて設定されている。理念・目的の適切性は、執行部会議及び教授会において、継続的・組織的なチェックが行われるとともに、年度末には質保証委員会にて年度目標及び達成指標に基づく評価を行うことにより、検証されている。
 理念・目的は学則に明示されており、教職員及び学生に周知するとともに社会に公表している。

2 内部質保証

【2018 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。	
①質保証委員会は適切に活動していますか。	はい いいえ

【2017 年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】 ※箇条書きで記入。
 ・内部質保証のため従来から FD 関連、特色ある教育、国際化関連に加え内部質保証委員会を運用している。
 ・このテーマ別委員会と執行部による中長期計画策定および内部質保証委員会による自己点検 PDCA サイクルを機能させ、教学面での内部質保証を行っている。
 ・学部の質を保証するための教学運営上の組織は十分整備されている。
 ・内部質保証システムはテーマ別委員会、質保証委員会、学部執行部、教授会により適切に機能化している。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

・2017年度理工学部質保証委員は大学院理工学研究科各専攻主任とし、2018年は質保証委員会とは独立にFDに関連した課題を検討する委員会を発足させる予定である。

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・理工学部内部質保証委員会では、大学院と学部でクロスチェックを行い、質保証の確実かつ客観的な実施を図っている。	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・新設のFD委員会の適切な運用を図る。	

【この基準の大学評価】

理工学部では従来から質保証委員会が設置・運用されているほか、FD関連、特色ある教育、国際化関連の委員会も同様に運用されている。これらの委員会と執行部とにより策定された中長期計画を実施し、質保証委員会が点検を行うことで、PDCAサイクルを機能させている。

3 教育課程・学習成果

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

【学位授与方針】

理工学部の教育目標に従い、以下の能力及び人間的、社会的規範を持った人材を育成する。卒業所要単位を修得した学生はこれらの能力について基準を満たすと認め学位を授与する。

1. 専門分野の体系的学識を持ち、優れた問題発見・解決能力を有するとともに変化の速い先端技術に自律的に柔軟に対応可能な専門性を有する。
2. 専門分野の学識に加え学部教育で総合的に培われた基礎・基盤学問分野の素養をもとに新たな分野の開拓・創生に挑戦する創造的姿勢を有する。
3. 専門分野において外国語によるコミュニケーションが可能であるとともに異文化を良く理解し、グローバルに活躍できる国際性を有する。
4. 技術と社会のかかわりを深く意識し、高い倫理観を持って持続可能な社会構築にむけリーダーシップを発揮し貢献できる豊かな人間性を有する。

①学部（学科）として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。

はい いいえ

3.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

【教育課程の編成・実施方針】

理工学部の教育目標・ディプロマ・ポリシーに従った教育を実施するため、下記の方針に従って教育課程を編成する。

1. 時代のニーズに対応したコース設定により履修を体系化させ、社会の要請に応える質の高い教育を実施する。
2. 少人数のゼミ教育のなかで先端的な実験・研究への取り組みを行うことにより高度な専門性と獨創性を身につけさせる。
3. 学びの多様性、学際分野の学びに対応するため、学部横断的教育プログラムを設ける。
4. 自然法則に感動を覚える基礎実験、参加型学習（PBL）等により高い動機づけを行う。
5. インターンシップ等のキャリア教育により実務能力と社会人としての倫理観を育成する。
6. 外国語による論文作成法や口頭発表等の実用的なコミュニケーション能力の涵養をめざし、能力別、少人数教育、スタディアブロード（SA）等を実施する。
7. 自然科学系の基礎科目（数学、物理）について基礎学力が不足する学生に対しリメディアル教育を充実させる

①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。

はい いいえ

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

②教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。	はい いいえ
<p>【根拠資料】 ※冊子名称やホームページURL等。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生向けに理工学部生のための履修の手引にて公開している。 ・理工学部の教育目標及び三つのポリシーについては、Web ページに掲載して社会に対して公開している。 (http://www.hosei.ac.jp/riko/shokai/policy/index.html) ・カリキュラムマップ、カリキュラムツリーを公開した。(http://www.hosei.ac.jp/riko/NEWS/topics/180521.html) 	
③教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。	S A B
<p>(～400 字程度まで) ※検証を行う組織(教授会や各種委員会等)や検証の時期等、検証プロセスを記入。</p> <p>質保証委員会、執行部会議及び教授会において、年度目標及び達成指標に基づく評価を実施し、併せて、改善点を明確にすることにより、継続的・組織的なチェックを行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小金井キャンパスにおける「グローバルオープン科目の開設」への積極的関与 ・学科ごとのカリキュラムマップ、カリキュラムツリーの作成と公開 ・学科ごとにチューター活動報告の集計 ・科目の履修登録、チューター制度、実験・演習、カリキュラム、シラバス、インターンシップ、卒業研究、就職活動をすべて対象とした学生モニターの継続実施 ・学部 FD・質保証委員または学部専任教員による兼任教員担当科目の授業参観を実施 ・GPA 制度を活用し、学科ごとに学力不振者への個別の対応を継続的に行っている 	
<p>【2017 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小金井キャンパスにおける「グローバルオープン科目の開設」への積極的関与 ・学科ごとのカリキュラムマップ、カリキュラムツリーの作成と公開 ・学科ごとのチューター活動報告の集計と分析 ・科目の履修登録、チューター制度、実験・演習、カリキュラム、シラバス、インターンシップ、卒業研究、就職活動をすべて対象とした学生モニターの継続実施 ・学部専任教員による授業相互参観を継続するとともに兼任教員担当科目の授業参観を新たに実施 ・GPA 制度を活用し、学科ごとに学力不振者への個別の対応を継続的に行った。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理工学部教授会資料 	
3.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	
①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。	S A B
<p>(～400 字程度まで) ※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記の教育課程の編成・実施方針に基づき、体系化され配置された科目に対し、学部として適切な教員を人選し、各課程に相応しい教育内容を提供している。 ・2019 年度に実施予定の大幅なカリキュラム改定に向けての検討を実施し、2019 年度のカリキュラム案を作成した。今年度はさらに精査を行いカリキュラムを確定させる予定である。 ・教職課程の申請にともない、2019 年度のカリキュラム改定を意識し、教職カリキュラムを精査するとともに、見直しを行った。 	
<p>【2017 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019 年度に実施予定の大幅なカリキュラム改定に向けて、より適切なカリキュラムとなるように検討し案を作成した。今年度は 2019 年度にむけてさらに精査し完全なものすると共に、実施を行う。 ・カリキュラムマップを作成しカリキュラムの適正性をチェックした。 ・教職課程の申請にともない、2019 年度のカリキュラム改定を意識し、教職カリキュラムを精査するとともに、見直しを行った。 	
<p>【根拠資料】 ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理工学部生のための履修の手引き ・理工学部教授会資料 	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> ・理工・生命教職課程運営委員会資料 ・カリキュラムマップ、カリキュラムツリーを公開した。(http://www.hosei.ac.jp/riko/NEWS/topics/180521.html) 	
②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。	S A B
<p>(～600字程度まで) ※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修(個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ(必修・選択等)含む)への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。</p> <p>教育課程の編成・実施方針に基づき、機械、電気電子、応用情報、経営システムの各学科の専門教育では、コース制を設け教育課程を体系化している。さらに、コースや境界領域で選択科目の履修モデルを設け体系的な学びを可能としている。一部の学科では、コースごとにカリキュラムツリーを作成している。創生科学科ではコース制は設けていないが、4つの学習フィールドを設定し、理工学部教育課程編成・実施方針に基づき有機的なつながりを理解する能力、多様な領域へ適用できる能力の育成等、時代の要請に合った教育課程を体系的に編成している。</p> <p>学科ごとにカリキュラムマップ、カリキュラムツリーを作成し順次性・体系性を確認するとともに、可視化を行っている。</p>	
<p>【2017年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。学科ごとにカリキュラムマップ、カリキュラムツリーを作成し順次性・体系性を確認するとともに、可視化を行った。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生向けに理工学部生のための履修の手引きを公開している。 ・理工学部の教育目標及び三つのポリシーについては、法政大学のWebに掲載して社会に対して公開している。(http://www.hosei.ac.jp/riko/shokai/policy/index.html) ・カリキュラムマップ、カリキュラムツリーを公開した。(http://www.hosei.ac.jp/riko/NEWS/topics/180521.html) 	
③幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。	S A B
<p>(～400字程度まで) ※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。</p> <p>建学の理念を踏まえ、豊かな人間性に支えられた自由な思考能力を育成するための幅広いカリキュラムを用意し、さらに学びの多様化に対応すべく他学科科目の履修も可能としている。また、教養科目全体を語学系、人文・社会・自然科学系、保健体育系、数学・理科系、リテラシー系に大別し体系化している。</p> <p>【2017年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>教養科目については、進級条件等との関係から2019年度に向けて検討を行った。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理工学部生のための履修の手引き 	
④初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。	S A B
<p>(～400字程度まで) ※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。</p> <p>初年次教育は教養科目の中で実施し、特に、付属校と特色ある高大連携プログラムを検討・実施するとともに、付属校推薦入試と指定校推薦入試の進学予定者に入学前の学習プログラムを設けている。また、理工学部新入生全員に対し、数学・英語・理科におけるプレースメントテストを実施し、能力別のクラス分けも配慮している。さらにプレースメントテストによりリメディアル科目(入門物理、入門数学)の受講を個別の学生に対して促している。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理工学部生のための履修の手引き ・プレースメントテスト実施報告書 ・理工学部教授会資料 	
⑤学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。	S A B
<p>(～400字程度まで) ※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>2010年度から国際化に対応するためのSA(Study Abroad)プログラムを継続的に実施している。この他、国際化を意識した英語能力向上のための少人数教育を必修科目として実施している。小金井キャンパスにおいてグローバルオープン科目を開設している。</p> <p>さらに、2018年度から実施する各種入試方法について検討を行った。</p> <p>【2017年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

入試制度については以下の取り組みを確定し、2018年度から実施予定である。

- ・外国人留学生入試後期日程の実施
- ・日本語教育プログラム対象入試（本学開講プログラム）の実施
- ・英語外部試験利用一般入試の実施

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・理工学部教授会資料
- ・理工学部生のための履修の手引き

⑥学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。

S A B

(～400字程度まで) ※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。
キャリア教育では、インターンシップを3年次生以降を対象に積極的に実施している。
一部のPBLにおいて、他大学や企業と連携して実施している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・理工学部生のための履修の手引き

3.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

①学生の履修指導を適切に行っていますか。

S A B

【履修指導の体制および方法】※箇条書きで記入。

- ・学科別ガイダンスで履修の手引きを配布している（シラバスはWeb閲覧可能）。
- ・学科主任や実験・実習、演習担当教員による個別試問を含めた十分な履修指導を行っている。
- ・各学科においてオフィス・アワーを周知し、学生の履修相談に対応している。
- ・低学年（1、2年生）に対しては、クラス担任による個別の履修指導を行っている。
- ・下級生に対する上級生の成績優秀者によるチューター制度を設けている。
- ・一部学科では、1年生にたいして少人数グループによるプレゼミ制度を設けてきめ細かい指導を行っている。
- ・学科ごとにチューター制度の利用者数の集計を行っている。
- ・3年次、4年次では、全学生のゼミ配属が行われ、少人数かつ密な指導を行っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・理工学部生のための履修の手引き
- ・理工学部教授会資料

②学生の学習指導を適切に行っていますか。

S A B

(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。

- ・重要な科目については講義に加え演習を設け習熟度を上げている。
- ・科目によってはスキル向上のため、少人数クラスとし必修科目としている。
- ・1年次から科学実験、物理学実験、化学実験、生物学実験、2年生以上においては少人数グループによる専門実験、ゼミ実験、PBL等を充実させ専門分野のセンスを養っている。
- ・オフィス・アワーなどの種々の機会も併用し、個別の学習指導も行っている。
- ・専門科目の実験については、一部の学科で学生一人ひとりひとりに対してすべての実験項目で試問を行い個人後とに理解度をチェックし密な指導を行っている。
- ・3年次、4年次では、全学生がゼミに配属され、少人数かつ密な指導を行っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・理工学部生のための履修の手引き
- ・研究室配属結果資料

③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。

S A B

(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。

- ・学習時間を確保する目的で履修登録科目の履修制限を実施している（原則として春・秋学期の各30単位かつ通年49単位）。ただし、優秀な学生に対する学びの機会を確保するため、2年次以降はGPAが3.0以上の学生については通年49単位の履修上限を60単位に変更している。
- ・実験については、毎週レポートの提出を課し、予習・復習時間が平均化するようにしている。
- ・シラバスに予習復習時間を記述し、学生に自覚を促している。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理工学部生のための履修の手引き ・ガイダンス資料 	
④1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行っていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>【履修登録単位数の上限設定】 ※1年間又は学期ごと、学年ごと等に設定された履修単位数の上限を記入。</p> <p>学習時間を確保する目的で履修登録科目の履修上限を設定している（原則として春・秋学期の各30単位かつ通年49単位）。</p> <p>【上限を超えて履修登録する場合の例外措置】 ※履修登録単位数の上限を超えて履修できる場合、制度の概要を記入。</p> <p>ただし、優秀な学生に対する学びの機会を確保するため、2年次以降はGPAが3.0以上の学生については通年49単位の履修上限を60単位に変更している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理工学部生のための履修の手引き 	
⑤教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>【具体的な科目名および授業形態・内容等】 ※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生自身で問題を発見し、その解決を考える力をつけるため、PBLを必修として、「主体的な学び」を視野に入れた授業形態を導入している。 ・実社会での体験を通じて学ぶインターンシップ科目を設定し、研究・技術者としてのリーダーシップ能力等の育成とその充実も目指している。 ・専門科目の実験については、一部の学科において学生一人ひとりひとりに対してすべての実験項目で試問を行い個別に理解度をチェックし緻密な指導を行っている。 ・3年次、4年次では、全学生がゼミに配属され、少人数かつ密な指導を行っている。 ・一部の学科を除き全教員によるオムニバス形式による学科ごとの専門分野の全体を理解するための必修科目を用意している。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理工学部生のための履修の手引き 	
⑥それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>(～400字程度まで) ※どのような配慮が行われているかを記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの授業形態に応じて、講義、語学、演習・実験等において、1授業あたりの学生数が配慮されている。プログラミングなどの必修科目については過剰な人数にならないように2クラスとしている。特に会話形式の必修語学授業、実験装置の制約に関する演習・実験科目等で1クラスの学生数の上限を概ね設けている。 ・留年者、休学者及び退学者の情報を学科または学部執行部の会議で把握している。成績不振の学生に個別で学科主任または担当教員から対応を行っている。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理工学部教授会資料 ・理工学部生のための履修の手引き 	
⑦シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切なシラバスに基づく教育を実施するため、Webシラバスの校正・確認を教員に求め、翌年度のシラバスチェックを実施している。 ・作成したシラバスは作成者以外の教員がクロスチェックして品質を高めている。 ・共通科目である数学については、線形代数と微積分について統一シラバスによる教育を実施している。 ・2018年度から実施の100分授業化にともない、すべてのシラバスの見直しを行った。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理工学部生のための履修の手引き ・理工学部教授会資料 	
⑧授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>・授業がシラバス通りに行われているかの検証について、授業相互参観の組織的な実施や授業改善アンケートによって状況把握を行っている。また、2017年度理工学部学生モニターを実施し、授業がシラバス通りに行われているかどうか確認している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理工学部教授会資料 	
<p>3.5 成績評価と単位認定及び学位授与を適切に行っているか。</p>	
<p>①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> A B</p>
<p>【確認体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績の評価方法、評価基準についてはWebシラバスに明記し厳格な運用を行っている。 ・成績評価に関してはGP及びGPAを算出している。 ・成績評価について全体のフィードバックを行い評価の主観的な評価基準の共通認識を高めている。 ・成績公表後一定期間、学生から成績を問い合わせられる仕組みを実施し、教員と学生の意識を一致させている。 	
<p>【2017年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>授業がシラバス通りに行われているかの検証について、授業相互参観の組織的な実施や授業改善アンケートによってある程度の状況把握を行っている。また、2017年度も理工学部学生モニターを実施し、授業がシラバス通りに行われているかどうか確認している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理工学部教授会資料 ・Webにて公開されているシラバス 	
<p>②他大学等における既修得単位の認定を適切な学部（学科）内基準を設けて実施していますか。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ</p>
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>理工学部は他大学等からの転・編入を実施していないため、他大学等における既修得単位の認定をしていないが、本学部の海外派遣留学の場合、留学先大学の修得単位を認定することを可能としている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理工学部教授会資料 ・留学案内 	
<p>③厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> A B</p>
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期試験、レポート、平常点などによって、総合的かつ厳格に成績評価を行っている。また、成績発表後の一定期間中に、学生による成績評価の調査申請制度を設定・実施している。 ・専門科目の実験については、一部の学科で学生一人ひとりに対してすべての実験項目で試問を行い個別に理解度を把握している。 ・3年次、4年次では、全学生がゼミに配属され、担当教員が日常的に個別に指導等を行い正確な成績を評価している。 ・成績公開後一定期間学生から成績を問い合わせられる仕組みを実施し、教員と学生の意識を一致させている。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理工学部教授会資料 ・理工学部生のための履修の手引き 	
<p>④学生の就職・進学状況を学部（学科）単位で把握していますか。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ</p>
<p>【データの把握主体・把握方法、データの種類等】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学科に就職担当を置いている。 ・各学科とキャリアセンターとが連携しながら把握している。 ・就職・進学情報は理工学部教授会で共有している。 ・各学科でも企業訪問を受け付け、状況の把握に努めるとともに、学生に対する紹介などを行っている。 ・3、4年次での全員学生を対象として少人数ゼミによる教育の中で、就職活動についても指導、情報交換を行っている。場合によっては企業の紹介等もしている。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理工学部教授会資料 	
<p>3.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>【データの把握主体・把握方法・データの種類等】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。 ・学生の学習成果を測定するため GPA の学科別分布、必修科目の不合格者統計を取り分析している。 ・進級、留年状況は学科教室会議ならびに学部教授会で把握し、2018 年度はカリキュラムの変更や進級条件の見直しを行う予定である。 ・英語力については入学年度 4 月と 12 月、および 2 年次秋に TOEIC テストを行い学習効果の検証を行っている。これにより少人数教育と能力別クラス編成で大きな教育効果を得ている。 ・新入生に対しては、プレースメントテストや TOEIC の結果をフィードバックし、リメディアル教育等に生かしている。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理工学部教授会資料、学科教室会議資料 	
②分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>(～400 字程度まで) ※取り組みの概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語力については入学年度 4 月と 12 月、および 2 年次秋に TOEIC テストを行い学習効果の検証を行っている。 ・新入生に対しては、プレースメントテストの結果をフィードバックし、成績により個別にリメディアル科目の受講を促している。 ・試験の成績のみでなく、研究成果の学会発表等を学習成果の一つの指標としている。 ・3、4 年次での全員の少人数ゼミによる日々の教育の中で、学習成果や研究成果を正確に把握している。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理工学部教授会資料、学科教室会議資料 	
③具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>(～400 字程度まで) ※取り組みの概要を記入（取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等）。 ・学生の学習成果を測定するため GPA や分布、必修科目の不合格者統計を取り分析している。 ・進級、留年状況は学科教室会議ならびに学部教授会で把握している。 ・英語力については入学年度 4 月と 12 月、および 2 年次秋に TOEIC テストを行い学習効果の検証を行っている。これにより少人数教育と能力別クラス編成で大きな教育効果を得ている。 ・新入生に対しては、プレースメントテストの結果をフィードバックし、リメディアル教育等に生かしている。 ・3、4 年次での全員の少人数ゼミによる日々の教育の中で、学習成果や研究成果（学会発表等）を正確に把握している。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理工学部教授会資料、学科教室会議資料 	
④学習成果を可視化していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>【学習成果可視化の取り組み】 ※取り組みを箇条書きで記入（取り組み例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績に関する基本統計データをグラフや表などの形で可視化している。 ・各種分析法を適切に施して得られたデータの可視化については、各委員会等で継続的に検討し教授会等で情報共有を行っている。 ・付属校推薦入試と指定校推薦入試の進学予定者については入学前にオンライン学習を課しており、進捗状況や得点等を可視化し把握している。 ・プレースメントテストについては点数データを把握し、本人へのフィードバックおよびリメディアル教育に活用している。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理工学部教授会資料 	
3.7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

向上に向けた取り組みも行っているか。	
①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善に向けた取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400 字程度まで) ※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレースメントテスト結果の集計 ・GPA の学科別分布の解析 ・必修科目の不合格者統計 ・TOEIC スコアの集計解析 ・教室会議、執行部会議、教授会にフィードバックする体制の構築および教室会議での学科毎の対策の検討 ・2019 年度のカリキュラム改変にむけて 2018 年度はカリキュラムの見直しを完了し実施準備を行う。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理工学部教授会資料 	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【利用方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生による授業改善アンケートを各教員のシラバスに反映させ、フィードバックしている。 ・授業改善アンケートにおける自由記述欄の導入と GPA のクロス集計を実施し、自由記述欄と GPA との相関について分析している。また、記名式にして回答の信憑性を向上させるようにしている（ただし、教員には個人名は公表されない） ・理工学部独自の質問項目を見直しおよび設定を行い、履修状況の把握も行っている。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理工学部教授会資料 	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程・学習成果についての必要な事項は的確に実施されており、PDCAサイクルが回っている。 ・今後はさらなる向上を目指して、問題点に記した課題について対策を講じる。 	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> ・2019 年度に予定されているカリキュラム改変に向けて、カリキュラムの見直しを継続する共に、新カリキュラムに合わせてカリキュラムマップ、カリキュラムツリーをより洗練されたものにする必要がある。 ・シラバスチェックについて、全数チェックは行われているものの効率良く行われていない。実施方法を改善する必要がある。 ・留年・休学・退学の年次変化等のデータの分析を行い、留年・休学・退学者の減少を目指して、原因分析を行い、今後の対策の基礎とする必要がある。 	

【この基準の大学評価】

①方針の設定に関すること (3.1～3.2)

<p>理工学部では、修得すべき学習成果やその達成のための諸要件が記述された学位授与方針が設定されている。教育課程の編成・実施方針についても、教育目標、学位授与方針に従った教育を行うための7つの方針が設定されている。</p> <p>教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針は、履修の手引きおよび Web ページに掲載されている。それらの適切性については、各種情報をもとに質保証委員会、執行部会議及び教授会において検証が行われている。</p>

②教育課程・教育内容に関すること (3.3)

<p>体系化され配置された科目に対し、理工学部として適切な教員を選任して教育を行うことで、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されている。コース制を設けて教育課程を体系化し、カリキュラムマップを作成することで、カリキュラムの適正性をチェックしている。他学科科目の履修も認め、教養科目全体を体系化するこ</p>
--

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

とによって、豊かな人間性に支えられた自由な思考能力を育成するための幅広いカリキュラムを提供している。初年次教育・高大接続については、入学前の学習プログラムの実施や数学・英語・理科におけるプレースメントテストの結果に基づくクラス分けを行うことで、対応している。必修科目としての英語の少人数教育や Study Abroad プログラムを実施することで、学生の国際性の涵養を図っている。インターンシップの実施や他大学・企業と連携した一部の PBL を提供することでキャリア教育を行っている。

③教育方法に関すること (3.4)

理工学部の学生の履修指導は、履修の手引きの配布や、学科主任や実験・演習担当教員などによる履修指導、オフィスアワーを利用した履修指導、チューター制度の利用等によって、適切に行われている。学習指導は、講義に演習を組み合わせる、少人数クラス編成とする、3~4年生はゼミに配属させ指導教員による指導を行う等により、適切に行われていると評価できる。学生の学習時間確保のためには、履修科目登録数の制限をはじめ、毎週実験レポートの提出を課すことで一定の時間、予習・復習を行わせている。学期および年間の履修登録単位数には上限が設けられている。効果的な授業形態としては、PBL を必修として取り入れることやインターンシップの単位化、一部の学科の専門実験での学生一人ひとりに対する実験内容に対する諮問など効果的な授業形態の導入に取り組んでいる。1 授業当たりの学生数は、多クラス化や、語学授業や実験科目でのクラス学生数の上限設定がなされ、過剰な人数にならないよう配慮されている。シラバスは、教員個人が校正・確認を行うだけでなく、作成者以外の教員によるクロスチェックによって品質を高めている。授業改善アンケートや学生モニター制度によって、授業がシラバス通りに行われているかの確認がなされている。

④学習成果・教育改善に関すること (3.5~3.7)

理工学部の成績の評価方法や評価基準をあらかじめシラバスに明記し、それに基づいて厳格な評価を行っている。海外派遣留学生に対しては、留学先大学での修得単位を認定することを可能にしている。成績評価は、定期試験だけでなく提出されたレポート等も含めて総合的かつ厳格に行われている。一部学科の実験科目においては学生一人ひとりに対するの試問によって理解度を把握し、成績評価を行っている。学生の就職・進学状況は理工学部教授会で共有している。学生の成績分布や進級などの状況は、学科ごとの学生の GPA の分布や必修科目の不合格者数として把握され、進級、留年状況も各学科の教室会議並びに学部教授会で共有されている。英語に関しては、学習成果の測定は、TOEIC テストによって行われている。また、学習成果を学生の学会発表数で評価する取り組みも行われている。こうしたデータを含め、成績に関する基本統計データをグラフや表の形で可視化し、教授会等で共有されている。プレースメントテストの結果を学生本人にフィードバックすることも、学生にとっての自分の成績の可視化につながる取り組みである。学習成果の定期的な検証は、学科別 GPA 分布の解析や必修科目の不合格者数、TOEIC スコアの解析を基に行われている。授業改善アンケート結果は自由記述欄と GPA のクロス集計を実施して、回答の信憑性を向上させる取り組みを行う等、組織的に利用されているといえる。

4 学生の受け入れ

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

【学生の受け入れ方針】

本学部の教育理念・目的を達成するとともにその効果を高めるためには多様な資質を持った学生を受け入れ、相互に切磋琢磨する教育環境を構築することが重要である。下記のように多様な入試経路を設け異なる背景をもって入学した学生が在学期間に互いに啓発しあうことにより、社会的適応性をもち人格的にも優れた人材を輩出することを可能とする。

1. 一般入学試験（学部・学科に重要な基礎学力のレベルの高い学生を選抜する）
2. T 日程および英語外部試験利用入試（全国から主要科目の基礎学力を重視して学生を選抜する）
3. 大学入試センター試験利用入試（バランスのとれた学力を有する学生を全国から集めることを目的とし、基礎学力に注目した選抜を行う）
4. 指定校推薦入試（豊かな自発性、指導性、自由な発想力を重視して指定する高校から優秀な学生を受け入れる）
5. 付属校推薦入試（高大連携により特色ある教育の実践を目指し意欲のある付属校生を受け入れる）
6. 帰国生入試・外国人留学生入試（国際性を身につけた学生を受け入れる）
7. スポーツに優れたものの特別推薦入学（学業とスポーツを両立できる優れた人材を受け入れる）

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

なお、いずれの経路の入学生にも高校で履修する理系科目及び英語について、入学時十分な基礎的素養を持つことが要求される。また、障がいのある学生についても可能な限り受け入れる方針である。

①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。

はい いいえ

4.2 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

①定員の超過・未充足に対し適切に対応していますか。

はい いいえ

(～200 字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。

問題となる定員超過・未充足があった場合は、クラス増や実験器具増設及び関連委員会での検討を踏まえ、適宜対応している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・理工学部教授会資料

定員充足率 (2013～2017 年度)

(各年度 5 月 1 日現在)

種別\年度	2013	2014	2015	2016	2017	5年平均
入学定員	553名	553名	553名	553名	553名	
入学者数	509名	656名	542名	549名	593名	
入学定員充足率	0.92	1.19	0.98	0.99	1.07	1.03
収容定員	1,983名	2,126名	2,169名	2,212名	2,212名	
在籍学生数	2,158名	2,357名	2,309名	2,326名	2,388名	
収容定員充足率	1.09	1.11	1.06	1.05	1.08	1.08

※1 定員充足率における大学基準協会提言指針

【対象】

- ①学部・学科における過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均
- ②学部・学科における収容定員に対する在籍学生数比率

【定員超過の場合】※医学・歯学分野は省略

提言	努力課題	改善勧告
実験・実習を伴う分野 (心理学、社会福祉に関する分野を含む)	1.20 以上	1.25 以上
上記以外の分野	1.25 以上	1.30 以上

【定員未充足の場合】

提言	努力課題	改善勧告
すべての分野共通	0.9 未満	0.8 未満

※2 定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準

年度	～2015	2016	2017	2018～
入学定員超過率	1.20 以上	1.17 以上	1.14 以上	1.10 以上
収容定員超過率	1.40 以上	1.40 以上	1.40 以上	1.40 以上

4.3 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

①学生募集および入学者選抜の結果について定期的に検証を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。

S A B

(～400 字程度) ※検証体制および検証方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。

- ・スポーツ推薦入試に理科の履修条件を追加して入学後の修学困難に対応している。
- ・2018 年度より英語外部試験利用入試を導入する。
- ・2019 年度入試、外国人留学生入試における募集人数枠を明確にした。
- ・執行部会議、教授会において継続的に検証を行っている。

【2017 年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

- ・外国人留学生の数と質のバランスを追求し、グローバル化対応の各種入試方法の導入に関して検討を行い、2018年度入試から次の入試方法の改定を決定した。(1) 指定校推薦入試について英語外部スコアの提出が望ましい(スコア基準なし)とする。(2) 留学生入試について、英語外部試験を追加し、理科の追加を学科裁量で認める。(3) 留学生入試について、渡日前入試を実施する。(4) 留学生入試について、法政大学日本語教育プログラム修了生を対象とする。(5) 英語外部試験利用入試を実施する。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・理工学部教授会資料

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
経路別合格者数、入学者数、入学者の学力などの年次データを共有している。経路別の入学者数及び学力分布を分析し、入試制度改革を検討し、学生の質の向上をめざしている。	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

理工学部では多様な資質を持った学生を広く受け入れ、互いに切磋琢磨する教育環境を提供することで、優れた人材に育て上げるという学生の受け入れ方針のもと、多くの入学経路を用意している。入学者には十分な基礎的素養を持つことが要求されている。入学定員充足率および収容定員充足率はともに大学基準協会提言指針を満たしており、適切に対応されていると評価できる。入学者選抜結果の検証は執行部会議及び教授会において継続的に行われており、改善・向上に向けた取り組みが行われているといえる。

5 教員・教員組織

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

5.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

【求める教員像および教員組織の編制方針】(2011年度自己点検・評価報告書より)

求める教員像：理工学部の理念・目標を達成するため理工学部の教員は各自の専門分野をリードする高い見識と研究能力を有するとともに教育の質保証を実現するため教育に対する熱意と優れた教育力を併せ持つことが求められる。この教員像は全ての理工学部教員に等しく要求されるものであり、この教員像に合致する質の高い教員を確保することはリーディングユニバーシティータラんとする法政大学全体のビジョン実現に不可欠の要素である。

教員組織の編制方針：各学科の主要分野に対して必要にして十分な数の教員を配置することを原則とする。学科主要分野の設定及び教員組織の編制は中長期計画にそって学部全体の十分な合意のもとに進める。学部横断的な共通基礎、教養分野の教育組織については全学的な学士課程再編成の方針に沿った形で小金井キャンパス全体の合意の上で構築する。

①採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていますか。

はい いいえ

【根拠資料】※教員に求める能力・資質等を明らかにしている規程・内規等の名称を記入。

- ・教員採用と昇格の基準は、法令の要件を踏まえて、下記の教授会規程教員資格内規に定められている。
- ・理工学部教員審査内規
- ・理工学部教授、准教授及び専任講師資格内規
- ・教員資格についてのガイドライン
- ・学部任期付教員規程
- ・助教規程
- ・教務助手に関する規定

②組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在をどのように明示していますか。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【学部執行部の構成、学部内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】 ※箇条書きで記入。

- ・理工学部執行部は学部長、教授会主任、教授会副主任及び各学科主任で構成されている。
- ・学部内の基幹委員会（一部は生命科学部・情報科学部との共同運営委員会）として、人事委員会、安全対策委員会、FD・質保証委員会、カリキュラム委員会、付属校・入試制度検討委員会、広報委員会、研究推進委員会、国際化委員会、教職課程運営委員会等が設置されている。
- ・それぞれの委員会は当該委員会の設置趣旨に基づき、理工学部または小金井にある生命科学部・情報科学部との共通問題に関する検討や新しい展開に関する企画等を行っている。
- ・委員会運営については、委員の互選による委員長責任体制であるが、最終的な運営責任は教授会または執行部にある。

【明示方法】 ※箇条書きで記入。

- ・委員会構成員については本人承諾はもちろんのこと教授会にて全体に明示して。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・理工学部教授会規程第8条
- ・理工学部教授会資料

5.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

①学部（学科）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。

はい いいえ

（～400字程度まで）※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性、国際性、男女比等の観点から教員組織の概要を記入。

理工学部では、教授、准教授及び専任講師資格内規に基づき、各学科人事推薦委員会、学部人事委員会及び教授会において、教員任用に関する検討・審議を行っている。なお、教養系科目の担当教員の選考は学部執行部、該当教員の所属学科及び小金井リベラルアーツセンターと連携して行い、専門科目に加えて教養教育（基礎理系科目：数学、物理）を担当できること、入試問題を担当できることおよび卒論を担当できることなども考慮する形で採用している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・理工学部教員審査内規
- ・理工学部教授、准教授及び専任講師資格内規
- ・教員資格についてのガイドライン
- ・理工学部教授会規程

②教員組織の編制において大学院教育との連携を考慮していますか。

はい いいえ

（～400字程度まで）※教員組織の編制において大学院教育との連携にあたりどのようなことが考慮されているか概要を記入。

理工学部では、大学院理工学研究科との教育・研究上の連携を積極的に推進している。理工学部教員資格についてのガイドラインでは、教授は専門分野において顕著な研究業績を有し、博士後期課程の研究指導及び講義担当適格者であることが明示されている。また、理工学部各学科と大学院理工学研究科各専攻は同一の教員組織で運営されており、教育研究は強い連携が前提となっている。例えば、研究室単位で学部生の卒業研究や大学院生の特別研究等を共同で実施することや、ゼミ発表会等も共同で行われるケースも多い。全学生が参加するゼミは大学院生と学部生が一体となり実施している。また、大学院修士課程の教育は学部教育の延長線上にあるとの共通認識の下で、学部専門課程でのコース（専門分野）別教育と対応する大学院での研究教育の活性化を目指し、学部4年生に対する大学院修士課程科目の先取り履修制度が実施されており、理工学部で開講している教職課程関連科目などは科目履修制度によって大学院生にも開かれている。加えて、大学院生は理工学部の実験・演習等の実技科目、PBL・ゼミナール等の少人数教育授業や卒業研究等に対する教育補助スタッフ（TA）として、学部生の指導を行っている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・教員資格についてのガイドライン
- ・理工学部教授会議事録

2017年度専任教員数一覧

（2017年5月1日現在）

学部（学科）	教授	准教授	講師	助教	合計	設置基準上必要専任教員数	うち教授数
理工	58	13	5	0	76	45	23

専任教員1人あたりの学生数（2017年5月1日現在）：31.4人

③特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。

はい いいえ

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【特記事項】（～200 字程度まで）※ない場合は「特になし」と記入。

過去、一部で年齢構成の偏りが見られたが、ここ数年の人事計画においては、任用後の教授会構成員の年齢構成を考慮に入れ、教員組織の年齢分布の適正化を図っている。下記の根拠資料から 2017 年度の年齢構成比が平均化し改善していることがわかる。

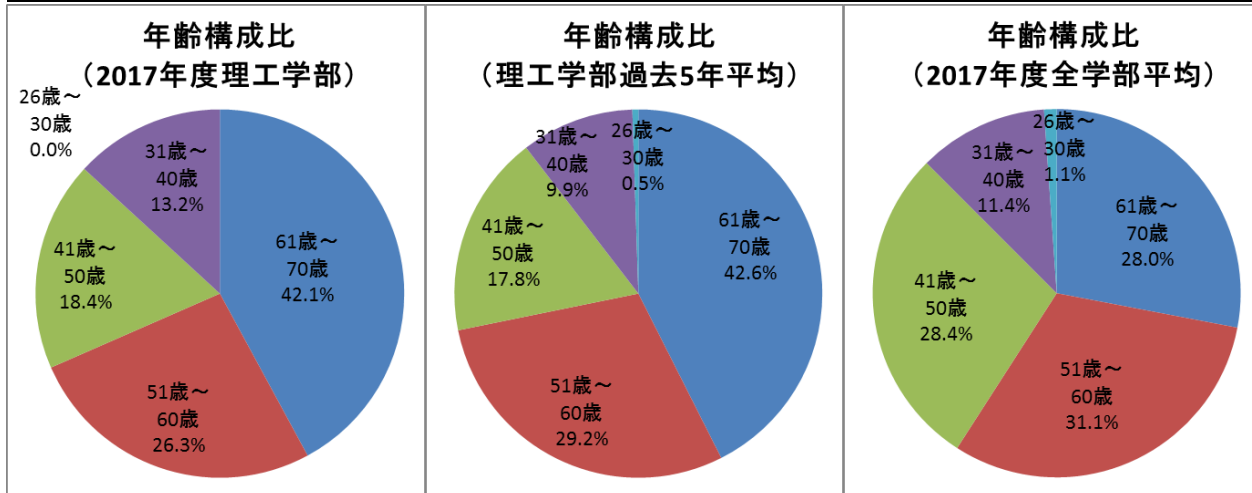
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・各種統計資料

年齢構成一覧

(2017 年 5 月 1 日現在)

年度\年齢	26～30 歳	31～40 歳	41～50 歳	51～60 歳	61～70 歳
2017	0 人	10 人	14 人	20 人	32 人
	0.0%	13.2%	18.4%	26.3%	42.1%



5.3 教員の募集・採用・昇任等を適切に行っているか。

①各種規程は整備されていますか。

はい いいえ

【根拠資料】※教員の募集・任免・昇格に関する規程・内規等の名称を簡条書きで記入。

- ・教員審査内規
- ・学部教授、准教授及び専任講師資格内規
- ・教員資格ガイドライン

②規程の運用は適切に行われていますか。

はい いいえ

【募集・任免・昇格のプロセス】※簡条書きで記入。「上記根拠資料の通り」と記載し、内規等（非公開）を添付することでも可。

- ・上記根拠資料の通り、推薦委員会の設置、人事委員会の設置をおこない、所定の手順にて承認を得るプロセスにて最終的に教授会にて承認され、適正に運用されている。

5.4 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

①学部（学科）内のFD活動は適切に行なわれていますか。

S A B

【FD活動を行うための体制】※簡条書きで記入。

- ・理工学部質保証委員会を設置し質の向上を図るとともに、来年度はFD委員会を設置しFD推進を図る予定である。

【2017年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※簡条書きで記入。

- ・全学科で授業相互参観を行っている。2017 度秋学期は、学部全体で専任教員の担当する全科目を公開し兼任講師の科目についても各学科 1 科目ずつ実施した。機械工学科 6 科目、電気電子工学科 4 科目、応用情報工学科 11 科目、経営システム工学科 5 科目、創生科学科 7 科目の相互参観を実施した。
- ・授業改善アンケートにおいては独自質問を設定し、授業の改善に向けた懇談会を行っている。授業改善アンケートにおける自由記述と GPA のクロス集計を行い教員へのフィードバック情報の有効性を高めている。
- ・研究活動状況を研究集報として公表し、教員の当該年度の研究業績や学会活動を掲載している。
- ・学生モニター制度を活用し、個別教員に対する意見があった場合、執行部から当該教員に改善点を連絡している。
- ・導入教育の一環として新入生対象にフレッシュマン・イブニングカフェをオープンし、1 年生の履修状況を把握し、履修指導や精神的な不安の払しょくに努めている。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

・FD 推進センターの各種イベントを所属教員に周知している。

【2017 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

学部 FD の一環として、FD 推進センターの主導で理工学部「教員による授業相互参観」が毎年実施され、授業改善アンケートとともに、授業の質の向上につながっていると思われる。これまでの「教員による授業相互参観」の補完として、2017 年度より、学部 FD・質保証委員または学部専任教員による兼任教員担当科目の授業参観を開始した（1 学科 1 コマ、計 5 コマ）。通常の「教員による授業相互参観」の実施期間中で行い、実施報告書は学部教授会に報告している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・理工学部教授会資料

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> ・教員による授業相互参観は確実に実施されている。 ・理工学部の一部の学科では、毎年度末に兼任講師の方々を招いて、専任教員全員参加の形でカリキュラムに対する講師懇談会を行っている。他大学や企業からの兼任講師の方々の授業に関する意見から、学部・学科のカリキュラム編成の改善につながる場合も多い。兼任講師も含む学科単位のカリキュラム編成等の FD 活動を学部として支援すべきである。 	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> ・授業相互参観は学科により実施程度のばらつきがあるので、より適正に運用するようにするとともに兼任講師の科目についても拡充を図る。 ・2018 年度から新設した F D 委員会を適切に運用する。 	

【この基準の大学評価】

理工学部では、採用・昇格の基準等において、教員に求められる能力や資質等が教授会規程に内規として定められている。学部執行部は学部長、教授会主任、教授会副主任に加え、各学科主任で構成されており、組織的な役割分担が行われている。資格内規に基づき、各学科人事推薦委員会、学部人事委員会および教授会において教員任用に関する検討・審議を行うことで、カリキュラムにふさわしい教員組織が備えられていると認められる。専門分野において顕著な研究業績を有し、博士後期課程の研究指導および講義担当適格者であることが明示されているガイドラインに従った教員組織の編成を行っており、大学院教育との連携は考慮されている。高年齢層に偏りがちだった年齢構成比が 2017 年度は平均化しており、教員組織の編成に配慮がなされたことがわかる。教員の募集・任免・昇格に関わる各種規程は整備されており、その運用も適切に行われている。FD 委員会を設置するなど、今後の積極的な FD 活動が期待できる。

6 学生支援

【2018 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 学生支援に関する大学としての方針に基づきとしての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	
①卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況を学部（学科）単位で把握していますか。	はい いいえ
【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】 ※箇条書きで記入。	
・教授会、執行部会議、学科教室会議及び専修会議等で、学部として組織的に把握している。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
・理工学部教授会資料	
②学部（学科）として学生の修学支援をどのように行っていますか。	S A B
（～400 字程度まで）※修学支援の取り組みの概要を記入（取り組み例：クラス担任、オフィスアワー、学生の能力に応じた補習・補充教育、アカデミックアドバイザーなど）。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンスによる説明、履修の手引きの配布を行っている。 ・チューター制度を導入し、上級生による下級生の修学支援を行っている。 	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> 3、4年次では、全学生がゼミに配属され、個人指導や少人数教育によりさまざまな相談に対応することにより、密に支援を行っている。 一部の学科では、専門科目の実験では、個人個人に試問を行い学習の支援を行うと共に、達成度を把握している。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> 理工学部教授会資料、学科教室会議資料 	
③成績が不振な学生に対し適切に対応していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
【成績不振学生への対応体制および対応内容】 ※箇条書きで記入。 <ul style="list-style-type: none"> 低学年の成績不振学生には、成績が優秀な高学年の学生によるチューター制度などによって対応し、その運営方法については教員のアンケート調査も実施し、検討も詳細に行われている。 成績不振学生については個別にヒヤリングを行うなど状況把握と改善に努めている。 基礎学力が劣った成績不振の学生に対して、リメディアル教育、補習授業による指導体制の強化も2015年度から実施され、教員による指導体制の強化も行いつつある。 学習意欲不足などが原因の成績不振の学生には、カウンセリングの紹介やクラス担任による指導などで対処している 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> 理工学部教授会資料 	
④学部（学科）として外国人留学生の修学支援について適切に対応していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
(～400字程度まで) ※外国人留学生の修学支援に関する取り組みの概要を記入。 <ul style="list-style-type: none"> 理工学部として、積極的に外国人留学生の学習支援を行っている。外国人留学生のための日本語講座の開講、日本人学生によるチューター制度の導入をしている。 3、4年次では、留学生も全員ゼミに配属され、個人指導や少人数教育によりさまざまな相談に対応することにより、密に支援を行っている。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> 学部教授会資料 	
⑤学部（学科）として学生の生活相談に組織的に対応していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
(～400字程度まで) ※学生の生活相談に関する取り組み概要を記入。 <ul style="list-style-type: none"> 学生相談室の紹介を積極的に行っている。 成績不振学生については、ヒヤリングを行い、相談にのるとともにチューターや相談窓口の紹介を行っている。 3、4年では学部の全学生がゼミに配属され、ゼミにて担当教員により個別、少人数を行っている。そのなかで、生活相談も行っている。 一部の学科では、1、2年次でプレゼミを実施し、少人数での教育、相談に対応している。 学年の担任を決め、学生の相談に対応しやすくしている。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> 学部教授会資料 	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> 基礎情報については概ね収集できている。 留学生、IISTの設置にともない、留学生対応を強化している。 	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> 留年者、休学者及び退学者の情報を学科または学部の会議で把握しているが、それに対応する分析と対策の検討は今後の課題としたい。 	

【この基準の大学評価】

理工学部の卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況は、学科主任会議および専修会議単位で把握されている。学生の修学支援はガイダンスや履修の手引きの配布のほか、上級生が下級生の相談を受け付けるチューター制度を実施しており、適切に対応されている。成績不振者に対しては個別のヒヤリングなどで状況を把握するとともに、リメディアル

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

教育や補習授業による対応がなされている。状況に応じてカウンセリングの紹介も行われている。外国人留学生の修学支援は日本語講座の開講や日本人学生によるチューター制度を導入して対応している。学生の生活相談については、学年ごとの担任を決めて対応したり、ゼミ担当教員が指導の一環として行っており、組織的に対応されている。

7 教育研究等環境

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

7.1 教育研究を支援する環境や条件を適切に整備し、教育研究活動の促進を図っているか。	
①ティーチング・アシスタント (TA)、リサーチ・アシスタント (RA)、技術スタッフなどの教育研究支援体制はどのようになっていますか。	S A B
<p>(～400字程度まで) ※教育支援体制の概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> RA、TAについては、確実に運用し、演習科目や実験科目の指導において効果を挙げている。 技術スタッフについては、2018年度から、教務助手制度を導入し、学科による管理を強化するとともに、実験等の教育支援の充実を図っている。 <p>【2017年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 技術スタッフについては、2018年度から、教員組織として教務助手制度を導入し、学科による管理を強化するとともに、実験等の教育支援の円滑化、充実化を図っている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・理工学部教授会資料</p>	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
これまでの、技術スタッフとして特任教育技術員と技術嘱託の制度があったが、新たに教務助手制度を2018年度から導入し、より、的確な教育支援を行えるようにした。	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

理工学部では、TA、RAについては、演習科目や実験科目に配置することで教育効果を上げている。技術スタッフについては、2018年度からの教務助手制度で教員組織に組み入れることによって、学科による管理を強化し、実験等の教育支援の円滑化・充実化を図っている。

8 社会連携・社会貢献

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

8.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また教育研究成果等を適切に社会に還元しているか。	
①学外組織との連携協力による教育研究の推進に関する取り組み及び社会貢献活動を行っているか。	S A B
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 小金井キャンパスとして地域連携の取り組みを続けており、一般向けの講演会の実施、小金井際での研究室紹介などを実施している。 企業との受託・共同研究を多く行い、外部資金獲得、研究の活発化を行っている。 地域に向けた一般公開のイベントとして、“七夕の夜は宇宙を見上げて”やノーベル物理学賞受賞者を招いた講演会を実施した。 	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・ 新規受託・共同研究件数

年度	2015	2016	2017
新規契約数	16	37	39

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
受託・共同研究は増加している。	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

理工学部では、企業との受託・共同研究を多く行い、外部資金獲得、研究の活発化を行っている。新規契約数は過去3年間ずっと増加している。地域に向けた一般公開イベントをも開催されている。

9 大学運営・財務

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

9.1 方針に基づき、学長をはじめとする所要の役職を置き、教授会等の組織を設け、これらの権限等を明示しているか。また、それに基づいた適切な大学運営を行っているか。

①学部長をはじめとする所要の職を置き、また教授会等の組織を設け、これらの権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。

はい いいえ

(～200字程度まで) ※概要を記入。

- ・理工学部執行部として、学部長、主任、副主任を配置している。
- ・教授会を設け、原則月一回開催している。
- ・学科には、学科主任を設けている。
- ・学部執行部としては、学部長、教授会主任、教授会副主任、学科主任を構成員としている。
- ・理工学部教授会規程およびその他内規、細則、規程を適切に整備している。
- ・定常委員会に加え、必要に応じて学部内委員会を設置することにより円滑な運営を行なっている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・理工学部教授会資料、理工学部教授会規程、理工学部執行部運営細則、その他内規、細則、規程

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> ・必要な規程、内規等は適切に整備されており、厳格に運用されている。 ・規程にしたがい、教授会および教授会執行部が設けられ適切に運営されている。 ・変更が必要な場合は随時所定の手続きを経て改正が行われている。 	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・質保証委員会の内規が無いので、制定する必要がある。	

【この基準の大学評価】

教授会を設け、学部長、主任、副主任、学科主任からなる執行部を構成し、理工学部教授会規程および多種の内規、細則を整備し、それらに則った運営を行っている。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

Ⅲ 2018 年度中期・年度目標

No	評価基準	内部質保証
1	中期目標	内部質保証について運用体制を構築しPDCAサイクルを確立する
	年度目標	質保証体制を確実にし、より優れたFDとするためにFD委員会を設置し運用する。質保証委員会の内規を作成する。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・FD委員会の適切な運用を行う。 ・質保証委員会の内規を作成する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
2	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムポリシーに基づき最適なキュラムとする。 ・理念・目的に合った教育内容であるかの確認体制を確立する。
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年度にカリキュラムポリシーに基づき変化する状況に対応したカリキュラムとするために改正を行う。 ・新カリキュラムに対応したカリキュラムマップ、カリキュラムツリーの改良を行う。 ・全シラバスチェック方法の効率化を行う。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年度からの新カリキュラムを完成させる。 ・現状のカリキュラムマップ、カリキュラムツリーを2019年度新カリキュラムに合わせ改正し、さらに理解しやすいものにブラッシュアップする。 ・全シラバスを効率よくチェックする方法を検討し、実施する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
3	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・留年・休学・退学者を減少させる。 ・教員による相互チェックによる品質の向上を強化する。
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・留年、休学、退学の状況や原因を精査・分析する。分析結果に基づいて対策案を考案する。 ・教員による相互授業参観を充実させる。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・留年・休学・退学データの取りまとめとその分析結果を示す。(留年・休学・退学者数) ・教員による授業参観については、全体数および兼任講師の科目について参観数を増やす。相互参観授業数を10%程度増加させる。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
4	中期目標	ディプロマ・ポリシーに基づく評価を実現する。
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年度の新カリキュラムに対応したカリキュラムマップ、カリキュラムツリーを構築する。 ・カリキュラムマップ、カリキュラムツリーに従った授業かどうかを確認する。
	達成指標	・2019年度版新カリキュラムマップ、カリキュラムツリーをチェックするとともに作成する。
No	評価基準	学生の受け入れ
5	中期目標	アドミッションポリシーに基づく入学経路の最適化し、より優秀な学生を受け入れる。
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・指定校推薦について、よりよい学生が来る高校の選別を強化する。 ・付属校においては、理系進学数を増やす方策を提案する。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・指定校推薦の高校についてより状況に適応した適切な選別を行う。 ・付属校に対する対策案を構築する。
No	評価基準	教員・教員組織
6	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢構成を適正化する。 ・教育研究支援体制を確立する。
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度の退職による教員補充について、年齢や専門分野を考慮し、適正な採用を行う。 ・教育研究支援体制については、教務助手制度の円滑な運用を実現する。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・退職者に対応して適正な採用を行い、年齢構成の改善を図る。 ・教務助手制度の各種規則や運用について明確化する。
No	評価基準	学生支援
7	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・留年、休学、退学を減らす学生の対策を確立する。 ・成績不振学生に対する支援活動を充実させる。
	年度目標	・留年・休学・退学の状況や原因を精査・分析する。分析結果に基づいて対策案を考案する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		・成績不振学生の定義の最適化および状況把握を行い支援のための対策案を作成する。
	達成指標	・留年・休学・退学の状況や原因を精査・分析し、対策案を作成する。(留年・休学・退学者数) ・成績不振学生に対する状況把握と対策のためのヒヤリングを充実させる。(ヒヤリング率)
No	評価基準	社会貢献・社会連携
8	中期目標	他大学、企業、地域との連携を活性化する。
	年度目標	地域にむけた一般者向けのイベントを充実させる。
	達成指標	地域向けのイベントや講演を増やす。(イベント数)
【重点目標】 教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】 カリキュラムポリシーに基づき最適なキュラムとする。そのために、2018年度はカリキュラムの設計と準備を行い、2019年度に実施する。その後は、改定カリキュラムが適正に運用されているかチェックを継続し、必要があれば改善する。		

【2018年度中期・年度目標の大学評価】

理工学部の中期目標に関しては、すでに行われていてある程度の成功を見ている項目も含まれている。よいものを継続していくという点では評価できる。しかし、将来を見据えた目標という点では、やや消極的なようにも思われる。また、年度目標と達成指標がほぼ同じ文言になっているところが多く見られる。そのため、2018年度目標への取り組み状況や達成状況を踏まえうえて、次年度の目標設定の際に検討を期待したい。

【大学評価総評】

理工学部として目指すべき方向性等を明らかにした理念・目的が設定され、継続的・組織的なチェックが行われている。これらは学則に明示されており、Web ページで教職員および学生に周知するとともに社会に公表されている。教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針は履修の手引きおよび Web ページに掲載・公表されている。体系化され配置された科目に対し、学部として適切な教員を選任して教育を行うことで、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されている。PBL を必修として取り入れることやインターンシップの単位化、専門実験での学生に対する諮問など効果的な授業形態の導入に取り組んでいる。学生の修学支援のため、上級生が下級生の相談を受け付けるチューター制度を実施している。成績の評価方法や評価基準をあらかじめシラバスに明記し、それに基づいて厳格な評価を行っている。学生の成績分布や進級などの状況は、学科ごとの学生の GPA の分布や必修科目の不合格者数として把握され、進級、留年状況も各学科の教室会議並びに学部教授会で共有されている。TOEIC テストや学生の学会発表数で学習成果を評価する取り組みも行われている。採用・昇格の基準等において、教員に求められる能力や資質等が教授会規程に内規として定められている。高年齢層に偏りがちだった年齢構成比が 2017 年度は平均化に向かっている。卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況は、学科主任会議および専修会議単位で把握されている。以上のように、評価項目の各基準について、一定の水準を保った活動や取り組みが行われていると評価できる。

学部独自の取り組みなどを積極的に行っていると評価できる。今後は、そうした取り組みを評価するための、より客観的な評価指標の設定が期待される。さらに、PDCA サイクルを確実に回して成果を上げていく上でも、第三者にもわかるような形で各取り組みの自己点検・評価が行われることを期待したい。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。